

2026年6月25日(木)

## インドネシア中学生との交流会

インドネシアの首都ジャカルタ Jakarta 市の南西部に隣接する南タンゲラン市 South Tangerang にある Sekolar Pembangunan jaya jomir school の中学2年生45名が3名の先生方に引率され、6月23日(火)本校を訪問されました。同校の School Immersion Program of 2026 として取り組んでいるもので、今回で4回目の訪問です。

前日に来日したばかりの皆さんですが、疲れも見せず宿泊先の成田からバスで到着。すぐに歓迎セレモニーを行い、本校からは石飛校長が歓迎の挨拶を、相手校からはサイフル SAIFUL MILLAH 先生(物理)がお礼の言葉を述べられ、学校を代表してプレゼント交換も行いました。今回いただいたカリマンタン島の伝統的意匠をモチーフとしたもので、事務室前に飾ってあります。

続いて、毎回趣向を凝らした演舞で私たちを楽しませてくれる出し物ですが、今年はカリマンタン島の伝統芸能をもとにアレンジしたもので、男女20数名ずつに分かれて雅な踊りを披露されました。本校からは生徒代表としては、本校からは生徒会長の永井 蒼士 [J3-4]さんが歓迎の意を表し、返礼として学園歌を披露しました。

今年の交流会は中学3年4組が全員で参加し、5～6人のグループになって自己紹介、プレゼント交換、インドネシアと日本の生活の違いやアニメーションや漫画など若者文化の紹介などで過ごしました。あっという間の2時間時間が経過し、校舎見学をする時間もない程でした。









### 【生徒の感想】

■インドネシアの方々との交流会ではとても学ぶことが多かったと感じています。私自身では英語は割と得意な方だと思っていましたが、いざ話してみると緊張や焦りで言葉が全く出てこず、実際にコミュニケーションを取る難しさを知りました。

私たち三年生は来年3月にはニュージーランドに行きます。今回の体験を生かしてその時は焦らず楽しく会話ができたらいいなと思っています。インドネシアの方々が見せてくれた民族舞踊もとても圧巻でした。日本舞踊や阿波踊り等、違った角度からも日本との文化の違いを学ぶことができ、とても有意義な交流会ができたと思いました。

— 佐藤 晴志朗[J3-4]

■私はインドネシアとの交流会を通して、「大切なのは英語を話せることだけではない」ということを学びました。交流会が始まる前、楽しみな気持ちが大きかったです。しかし、実際に英語でコミュニケーションを取るとなると、自分の伝えたいことが相手にきちんと伝わるのか不安もありました。ですが、インドネシアの生徒たちが来たときに笑顔で迎えると、みんなも笑顔で応えてくれて、嬉しかったです。

私のペアの子は英語・インドネシア語・日本語を話すことができたので、私の説明が上手ではなくても理解してくれました。

今回の交流会を通して、英語を完璧に話せなくても、知っている単語やジェスチャーを使いながら、相手に伝えようとする気持ちが大切だと感じました。この聖だからこそできた経験をニュージーランド修学旅行でも生かしていきたいです。

— 坂 澄玲[J3-4]